

ニューガラスフォーラムへの期待



ガラス産業連合会 会長
(板硝子協会会長，旭硝子代表取締役社長執行役員)

門 松 正 宏

平成 17 年 7 月に開催されましたガラス産業連合会（GIC）定時総会におきまして，第 5 代会長に選任されました。本年は板硝子協会の会長と共に GIC の会長もお引受することとなり，責任の重さを痛感しております。会員各社の皆様のお力添えを頂き，ガラス産業発展のために少しでも貢献して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

さて，昨年三十年振りに京都で開催された国際ガラス会議で，GIC が柴田前会長の主導の下に，拠出金の依頼から会議への参加動員に至るまで財政面・運営面それぞれについて多大な貢献を果たすことが出来たことは記憶に新しいところです。この成果によって世界各国の参加者に対して，日本における産業界と学界との連帯が非常に強いものであることを強烈に印象づけることとなりました。この国際ガラス会議を支える大きな力となったことこそ，GIC が存在する基盤ではないかと思います。

GIC が設立された主目的は，①ガラス産業全体に関わる諸問題への対応と提言，②技術・研究開発を含む戦略の策定とその具体化の推進，をガラス産業界全体で協働して実行することにあります。特に後者につきましては，ニューガラスフォーラムとの連携が非常に重要であり，GIC はニューガラスフォーラムの研究開発活動を側面から支援する立場にあります。例えば「ナノガラス」につきましては，ニューガラスフォーラムがナショナルプロジェクトの受け皿となって精力的に取り組んでおり，21 世紀の先端技術として期待されております。GIC では技術委員会が円滑な研究活動推進のために全面的な支援を行ってきております。

GIC 技術委員会では今後も更に，欧州環境規制に関する調査研究，直接ガラス化による革新的省エネルギーガラス溶解技術プロジェクトの推進，日本セラミックス協会ガラス部会との連携による「ガラス・フォトリソグラフィ討論会」の開催などを予定しています。具体的には，技術委員会の下に組織されているプロセス技術，環境技術，材料技術の各部会で，テーマごとに掘り下げて行くことにしております（技術委員会の平成 17 年度計画を

文末に付記)。

本年は更に、国立科学博物館の調査依頼に協力して、運営委員会の下に組織されている環境・広報部会が中心になって「ガラス産業技術史調査」に取り組むことにしています。既に GIC でも、インターネット上のガラス博物館の企画に着手することにしており、その構想の中に技術史的なものもあります。まさに科学博物館の調査依頼は時宜を得たもので、ガラス産業界としてこれに全面的に協力することにしました。このような技術史の集大成は、ガラス産業界の連合体としての GIC に相応しい活動であると思います。技術史という内容上ニューガラスフォーラムのご協力も必要で、宜しくご支援の程お願い致します。

GIC を構成する 6 団体の中で、(五十音順で)板硝子協会、硝子繊維協会、電気硝子工業会、日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協会の 5 団体はいずれもそれぞれの業界団体です。その点ではニューガラスフォーラムはユニークな存在と言えます。設立の目的はニューガラスの産業の発展と関連する技術開発を推進するために、産・官・学が一体となってわが国のガラス産業の進化を図ることであるとお聞きしています。2000 年 3 月にニューガラスフォーラムが官・学の協力を得て策定した「ガラス産業技術戦略 2025 年」は、2002 年 3 月の見直しに当たって GIC がその任務を引き継ぎ、ガラス基盤技術における研究開発のバイブルともなっています。GIC では技術委員会が中心になって、この技術戦略 2025 年に基いて、今後の研究開発、技術開発のテーマの優先順位を決めて活動を進めて行く所存です。テーマの選定とその実施に当たって、ニューガラスフォーラムの力強い協力が必要なことは言うまでもありません。

GIC のホームページを開きますと、「ガラスには未来と夢があります」というキーワードが目の中に飛び込んできます。この未来と夢の実現には、ニューガラスフォーラムの研究開発活動が欠かせません。この夢の実現に向かって、今年二十周年を迎えたニューガラスフォーラムが一層飛躍されるよう期待するものであります。GIC は、その支援を怠りません。宜しくお願い申し上げます。

以 上

平成 17 年度 GIC 技術委員会推進計画

部会名	主 要 課 題
プロセス技術	1. 新溶解法文献調査(省エネルギーをターゲット) 2. 直接ガラス化による革新的省エネルギーガラス溶解技術プロジェクトの推進 3. 特記項目(技術用語の統一化検討、技術論文のHP掲載)
環境技術	1. 欧州環境規制(RoHS)とそれに対するガラス分野としての問題点の解明 2. 世界的な環境規制と世界的標準化動向の調査研究 3. 各種溶出試験の現状と長期耐水性評価技術の開発
材料技術	1. ガラス研究公的機関Directory作成 2. 講演・討論会の開催、産学交流会の推進